



議会だより

なよろ



増刊号

平成29年10月16日～19日実施 2018.4.1発行

議会報告会の報告集



(A班 1区町内会館)



(B班 東風連子供と老人福祉館)



(C班 高見区町内会福祉会館)



(D班 東部地区集落センター)

も
く
じ

議会報告会を終えて・議会報告会実施概要	2
班別実施状況	3
各会場からいただいたご意見	4～7
市民要望に対する市長の回答	8～11
アンケート調査の結果について	12

議会報告会を終えて



名寄市議会議長 黒井 徹

平成29年10月16日から19日に市内12会場で開催した議会報告会に、多くの市民の皆さまにご参加いただき、誠にありがとうございました。

平成29年度から、より多くの市民の皆さまと意見交換ができるようにと、議会報告会を4月と10月の年2回の開催とし、今回は市民の皆さんが足を運びやすい町内会館等で実施させていただきました。開催にあたり会場の手配、町内会への連絡等、ご配慮いただきました町内会長はじめ役員の皆さまに重ねてお礼申し上げます。

各会場では、道路整備・除排雪など市民生活に密接にかかわる意見、要望や、公共施設の管理のあり方、防災対策など、行政課題や将来に関する案件などについて、また、議会に対しても議会改革の進捗状況、議員定数についてなど、多くのご意見をいただきました。

行政に対する要望の中から7項目について、市長に見解を求め、回答をいただきました。市議会では、市民要望に対する市長回答や議会報告会でのご意見を所管する各常任委員会で協議し、地域課題の現状を把握し、議会としての対応を検討しています。各常任委員会での検討結果を報告できる段階にはありませんが、市民の声を市政に反映することができるよう取り組みを進めてまいります。

私たち議員の任期も残すところ1年となり、議会改革の目標である「市民に信頼される議会を目指して」を結果として見えるように、市民に分かりやすく、開かれた議会運営に努め、市民生活に密着した議会活動を進めてまいります。

＝ 平成29年10月開催 議会報告会実施概要 ＝

今回の議会報告会は、4班体制で市内12会場において開催し、全会場あわせて107人の市民の皆さまに参加していただきました。6月に実施した市民アンケート調査では、身近な町内会館等で報告会を開催すると参加しやすいとのご意見をいただきましたので、町内会長はじめ役員の皆さんにご協力いただき、町内会館等で実施しました。皆さんのご協力に感謝申し上げます。

報告会では、議会側から、4月の報告会以降に開催された定例会や臨時会の審議状況、各委員会の行政視察についてなど議会活動を報告し、その後は参加者とテーマを設けずに意見交換を行いました。質問、意見、要望は建設的なものを中心に91項目となりました。行政に対する質問、意見については、正副議長と議会運営委員会正副委員長で内容を精査し、7項目について市長に見解を求め、回答をいただきました。今までの議会報告会は、報告会で集まった行政に対する市民意見について、市長に見解を求め、回答を得て、市民の皆さんにお知らせするという取り組みをしてきましたが、今後は市民の皆さんの意見をどのように市政に反映させるのか、市長回答及び報告会の市民意見を所管する各常任委員会で検討し、議会としての対応について協議を進めております。現在も取り組みを進めているところであり、成果についての報告は掲載できませんが、10月開催の議会報告会についてお知らせいたします。増刊号発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。より細かい報告書の閲覧を希望される方は議会ホームページをご覧ください。または議会事務局までお申し出ください。

平成29年10月 議会報告会 班別実施状況

報告会は班責任者のあいさつ、出席議員の自己紹介にはじまり、配布した資料に基づき、議会活動の報告（行政視察、議会改革の進捗状況等を含む）等を行い、その後、意見交換に入りました。昨年同様、参加者のご協力を得てアンケート調査を行い、質問項目の他に議会に対してのご意見等をいただきました。

《A班》 班長 黒井 徹（議長）

高野 美枝子（総務文教常任委員会副委員長）

大石 健二（市民福祉常任委員会副委員長）

野田 三樹也（総務文教常任委員会委員）

佐久間 誠（経済建設常任委員会委員）

担当会場 10月16日 1区町内会館 参加者 13人

10月17日 智恵文多目的研修センター 参加者 10人

10月19日 瑞生コミュニティセンター 参加者 8人

《B班》 班長 佐藤 靖（副議長・総務文教常任委員会委員）

川口 京二（経済建設常任委員会副委員長）

佐々木 寿（市民福祉常任委員会委員・経済建設常任委員会委員）

塩田 昌彦（市民福祉常任委員会委員・議会報特別委員会副委員長）

浜田 康子（市民福祉常任委員会委員）

担当会場 10月17日 栄町団地集会場 参加者 9人

10月19日 西部地区集落センター 参加者 10人

10月19日 東風連子供と老人福祉館 参加者 6人

《C班》 班長 山田 典幸（議会運営委員会委員長・総務文教常任委員会委員）

熊谷 吉正（市民福祉常任委員会委員長）

川村 幸栄（経済建設常任委員会委員・議会報特別委員会委員長）

東川 孝義（経済建設常任委員会委員）

担当会場 10月18日 豊栄福祉会館 参加者 7人

10月19日 児童センター 参加者 19人

10月19日 高見区町内会福祉会館 参加者 9人

《D班》 班長 奥村 英俊（議会運営委員会副委員長・経済建設常任委員会委員長）

東 千春（総務文教常任委員会委員長）

山崎 真由美（総務文教常任委員会委員）

高橋 伸典（市民福祉常任委員会委員）

担当会場 10月16日 東12区町内会館 参加者 8人

10月18日 ひまわりらんど 参加者 4人

10月19日 東部地区集落センター 参加者 4人

各会場からいただいたご意見

10月16日 東12区町内会館 参加者8人

問 委託事業が多くなり、市職員が現場をわかっていないことが多い。連絡しても対応されないこともある。

答 事務処理だけでなく、何のための仕事か職場内での意識の共有が必要。職員の情報の共有について改善していかなければならない。

問 議員の成り手がなければ、定数を割ることもある。市民と、議員のつながりを考えなければならないのでは。

答 市民の皆さんには町内会や行政とのつながりが大きく、議員に伝えるまでもないという考えもあるかもしれないが、この議会報告会のように意見交換のできる場が必要と考えている。

問 成年後見センター事業業務委託料について、内容と補正審議の状況は。

答 判断能力が十分でない方が不利益を被らないように成年後見制度を利用するための相談業務を社会福祉協議会に委託した。補正審議は、全会一致で可決した。



10月16日 1区町内会館 参加者13人

問 議会報告会は、町内会単位ではなく、議員が支援者、支持者に報告をおこなえばよいのではないか。

答 議会報告会は、広く多くの市民の皆さんの声を直接聞くのがねらい。町連主催のまちづくり懇談会と合わせて、市民の皆さんの声を寄せてほしい。

問 高齢者を対象とした屋根の雪下ろし費用の助成について、事業内容は。

答 高齢者の屋根の雪下ろし中の事故防止のため除雪サービス事業を拡大した。70歳以上の世帯、65歳以上の虚弱な高齢者等で所得制限などの基準がある。詳しくは健康福祉部で確認を。

問 議会改革の経過と議員の成り手不足について、報酬の見直しなど必要では。

答 議会改革は平成30年3月をめどに協議を進めている。議員報酬の見直しも考慮すべき課題だが、市のまちづくりに関心を持ってもらう環境の醸成が求められている。



10月17日 栄町団地集会場 参加者9人

問 常任委員会の行政視察の視察先の決定基準は。先進地を真似るのではなく、名寄市独自の取り組みが必要では。

答 各常任委員会で市が抱える課題等についてテーマを決めて先進地の取り組みを視察している。真似るのではなく、名寄市にどのように活かせるのか委員間で議論している。

問 議員定数について、議会の中ではどのような話になっているのか。現行の18人のままでよいのではないか。

答 議員定数については、議会基本条例の見直しを含めて議論をする。議会として予算や施策の審議ができる体制を作らなければならない。全体を見て議論を進めていく。

問 市営住宅の空きが多いのではないか。市の判断で家賃を下げる等対策はできないか。

答 国の補助事業で建設しているため、名寄市で家賃の改定はできない。修繕の期間に空き室になる場合もある。



各会場からいただいたご意見

10月17日 智恵文多目的研修センター 参加者10人

問 政務活動費を全額もしくは半額以上返還している会派は政務活動をしていないのか。

答 政務活動をしていないわけではない。議員のネットワークを使って情報交換などしている。政務活動費を使わないことを方針とする会派もある。

問 高齢になってもこの地区に住み続けたい。小中一貫校など公共施設の建替えの計画があるならば介護施設など含めた総合的な施設建設を望む。

答 新たな施設建設となると厳しい。総合計画後期計画などの見直しの機会など地域の声としてまちづくり懇談会などで執行者側に要望してほしい。

問 4月の選挙は農村地区では厳しい。選挙の時期をずらすことで農村地区からの議員がでるのではないか。

答 選挙時期が農繁期と重なることは農村地区にとっては大変である。今回の選挙では4人の議員がいた風連の農村地区からは結果的に出られなかった。



10月18日 豊栄福祉会館 参加者7人

問 開業医誘致条例が提案されたということだが市内の開業医は今後増える見通しがあるのか。

答 ここ数年で市内の開業医3院が閉院し、市立総合病院の役割やかかりつけ医の不足等の状況など、名寄市の実情にあった助成制度になるよう審議中。

議会報告会について

意見 高齢になると夜の時間の報告会は億劫である。昼間、夜、土日等の組み合わせでの開催も必要では。

意見 議会報告会という名前が硬い印象。身近に感じる工夫が必要。

意見 今回の報告会は身近な話し合いができて良かった。

議員定数について

意見 議員定数は18名でよいと思うが、選挙があったほうが良い。選挙が無いとどんな人が出て何をやろうとしているのか分からない。

意見 議員定数が削減されても3常任委員会体制は継続したほうが良い。



10月18日 ひまわりらんど 参加者4人

問 特別養護老人ホームでは介護職員の不足から入所に影響があるようだが介護職員の給与が安いからではないか。

答 給与面の影響もあるかもしれないが、介護職員となる人材が不足している。市では資格取得のための補助制度を創設した。人材確保へつながってほしい。

問 町内会館での報告会は良い企画だと思う。何度か続けるうちに皆さんが参加しようと思うかもしれない。

答 議員側が大勢では意見を言いづらい部分もある。たくさんの意見をいただいたのは大変ありがたい。改善する部分があれば今後も意見をいただきたい。

問 議会だよりは文字ばかりで読みたいと思わない。見てもらえる議会だよりへの工夫が必要では。

答 読みたい議会だよりはどのようなものか、市民の皆さんと同じ目線で考えて、読んでもらえるものをつくりたい。



各会場からいただいたご意見

10月19日 西部地区集落センター 参加者 10人

問 市議会議員選挙の4月は農作業が重なり、議員に出たいと気持ちがあっても出られないのではないかと。時期を考えてほしい。

答 現在は農業に関わる議員は2人。風連地区の農業に関わる議員は0人。4月30日までの任期のため、選挙を前倒しするには解散ということになる。意見があったことは報告する。

問 市内バス停で、雪が踏み固まり馬の背のようになり乗降しづらい。子どもお年寄りに安全上の配慮が必要では。

答 管理組合やバス会社の対応となるが安全面の配慮は必要と考える。意見として受け止めたい。

問 災害を防止することで農地は良い土地になり、第1次産業の農業も地域も盛り上がる。農業振興施策を進めてほしい。

答 農業振興について、実際に農業者の声を聞いて理解して議会、議員活動をしていきたい。団体との意見交換なども開催したいと考えている。



10月19日 児童センター 参加者 19人

問 高齢者に対する除雪サービスの助成対象を拡大し多くの高齢者がサービスを受けられるようにすべきでは。

答 市として限られた予算の中で、どの部分に優先的に配分するかということになるが、貴重なご意見として受け止め、行政側に伝えたい。

問 子どもたちの医療費無料化を拡大すべき。近隣自治体でも小学生以下の医療費全額助成等実施している。

答 近隣自治体と単純な比較はできないが、ご意見は理解できる。議会としても無料化の拡大が望ましいというのは共通認識だと思うので、行政に対して検討を働きかけていく。

問 国民健康保険制度の改正により、名寄市の国保税は上がるのか。

答 30年度から国保の財政管理が都道府県に移管される。現段階でははっきりしたことを申し上げられない。3月議会で条例改正が提案されるのでは。



10月19日 東風連子供と老人福祉館 参加者 6人

問 公共施設の使用料について、風連地区ではこれまで無料だった施設について使用料がかかるようになった。これまでの歴史や施設の役割などもある。議会としての考え方は。

答 第3回定例会で特別委員会を設置した。公平性公正性を確保し更なる市民サービス向上を基本として審議する。

問 農業情勢もめまぐるしく変化し、農業者としては不安もある。市の農業施策の中には現実的でないものもあるが、どのように考えているのか。

答 農家の担い手等との意見交換などを実施し、農業についての現場の声を聞き、議員で共有したいと考えている。

問 自衛隊員の農業支援の新聞記事があったが、今後、農家の支援に自衛隊員がかかわることが可能なのか。

答 自衛隊員の農業支援は災害時の出勤などになると思う。市内の労働力不足は農業に限らず課題と認識している



各会場からいただいたご意見

10月19日 瑞生コミュニティ センター 参加者8人

問 以前は地元で議員がいた。改選期の4月は農繁期で出るほうも応援するほうも大変だ。時期を移行できないか。

答 他の会場でも同じような意見をいただいている。改選期の移行は議会の解散しか手立てがない。

問 議員定数は人口比だけで結論を出すのではなく、これ以上減らすべきではないと考えるが。

答 議会基本条例に基づいて、人口比だけでなく、面積、財政力、事業課題等に照らし、議会改革調査特別委員会で平成30年3月をめどに協議を進めている。

問 議会と住民の意思疎通が薄い。住民も議会への関心も低く、議員の名前も知らないのが現状。良い方法はないか。

答 声をかけていただければ、どこへでも出向きたい。遠慮することなく声をかけてほしい。



10月19日 高見区町内会福祉会館 参加者9人

問 高見区は議員がいなくなったので議会の様子もわからない。議員は町内会の議員ではない。議員自ら出かけて要望を聞いてほしい。

答 市民と行政のパイプ役としての活動をしっかりしていく。議会としても意見を聞く場を多く持つよう努める。

問 定例会の一般質問はお互いに文章を読んでいるだけにしか聞こえない。一字一句すりあわせをしているのか

答 質問内容を事前通告し、質問の主旨の聞取りは行うが、内容のすりあわせはしていない。

問 行政視察には任期中何回行くのか。視察を参考にされた事業はあるか。

答 常任委員会の視察は任期中の決められた予算の範囲で毎年実施することとしている。除雪についての提案など視察が有効に活かされている部分はある。



10月19日 東部地区集落センター 参加者4人

問 名寄市は補助金について勉強不足ではないか。職員が情報収集して補助金を活用する努力が必要では。

答 補助事業自体が縮小されている傾向にあるが、該当する各種事業に活用している。補助金活用の理由付け等研究も必要と考える。

問 今回のような議会報告会を多く開催できれば議員のこともわかるようになる。今は議員がどのような人なのかかわからない。

答 今回初めての試みとして町内会館等で実施している。何年かかけて全町内会で実施できればよいと考えている。

問 議員の成り手のことを考えると、報酬を上げることも必要ではないか。

答 若い世代の方が議員報酬で子育てしながら議員活動するのは難しい面もある。報酬の額によって議員活動が変わるものではない。報酬の額と議員の資質向上は別の問題である。



市民要望に対する市長の回答

1

町内会への加入促進について

近年、市内においてマンションの建設が増加してきているが、マンション入居者の町内会への加入が少なく、対策が必要ではないかとの意見がありました。

町内会への加入は任意であり強制できないのが現状ですが、マンションの建築業者で市外業者の中には、管理費の中に町内会費が組み込まれている事例もあり、市内業者等にも協力を求めるなどの加入促進の対策をすべきとの意見が出されました。

まちづくりと地域コミュニティの活性化という観点からも、町内会への加入促進について市長の見解を求めます。

【回答】

町内会につきましては、住みよい地域社会を築き、市民が主体のまちづくりを進めるための最も基本的な組織であると認識しています。

また、町内会においては近年、少子高齢化や価値観の多様性などにより地域の連帯感が低下し、それに伴い役員の担い手不足や行事参加者の固定化、アパート・マンションの増加などによる町内会加入率の低下および子ども会活動の停滞などといった課題についてアンケート等により把握しているところです。

本市としては、各町内会における自治活動の自主性や自立性を尊重しつつ、市民が主体のまちづくりを推進するため、名寄市町内会連合会と連携して町内会加入促進を含めた課題解消に向けた具体的な取組の検討を進めてまいります。

2

JR宗谷本線の問題について

JR宗谷本線の廃止問題にかかわって、複数の会場において意見がありました。議会としても行政としっかり歩調を合わせ、解決に向けて取り組んで欲しい等の意見が出されるなど、地域住民の生活に関わる重要な問題であり、市民の関心も非常に高いことが伺えます。

路線の存続に向けての取組の状況と、今後の運動の展開も含めて市長の見解を求めます。

【回答】

JR宗谷本線の問題につきましては、議会の皆様方にも存続に向けた取組を行っていただいておりますことにお礼申し上げます。宗谷本線活性化推進協議会におきましては、この間、構成団体も増え、26自治体6団体となりました。道北地域にとつて鉄道が果たす役割が大きく、沿線のみならず広範囲な自治体、経済団体で構成されており、協議会会長としてしっかりと鉄道存続に向けた議論を進めてまいります。

本年は、鉄道利用者の状況を把握するためのアンケート調査を沿線自治体で取り組み、各地域で特徴のある結果となりましたが、名寄駅におきましては通勤・通学利用が多く、生活インフラとしての役割が高いことが改めて確認できたところです。

年内には、協議会として宗谷本線は道北地域に必要不可欠なインフラであることを前提とし、一定の方向性を出す予定となっており、引き続き経営問題として資金面で厳しいところは、北海道全体の鉄道網維持の大きな課題として、持続可

能なスキーム構築のため、国や道に対し支援を要望していかなければならないと考えております。今後も地域の方に利用していただける宗谷本線が維持できるよう努力してまいります。

3

名寄市立総合病院での放射線治療について

現在、名寄市立総合病院では放射線治療は行われておらず、1日15分の治療を受けるために、旭川の病院に通院することができないため入院しなければならぬなど不慣れた状況であるため、名寄市立総合病院での放射線治療が可能となるよう取り組んで欲しいとの意見が出されました。

第3次医療を担う病院として、治療が行える施設が必要という声もあり、名寄市立総合病院での放射線治療について市長の見解を求めます。

【回答】

現在、日本のがん治療につきましては、様々な治療法や分子標的薬などに代表される新たな薬剤が開発され臨床に用いられるなど、日々進化を遂げているところでありますが、国立がん研究所や中央社会保険医療協議会が示した資料によりますと、日本のがん患者総数は、将来的に現状から増加しなるとの見通しが示されており、このような見通しのもと、特に体制整備に巨費を要する放射線治療の実施施設については、拠点化・集約化が図られてきております。

市立総合病院では、診療科として「放射線科」を標榜しており、これまでも歴代の院長を先頭に放射線科専門医の招聘に取り組んできておりますが、全国的に専門医が不足していることから一度も実現に至っておりません。

また、放射線治療を実施するためには、専用の施設建設や機器整備に10億円を超える設備投資が必要となるため、専門スタッフを含めた人材確保との両面において大変厳しい状況

にあります。

さらに、医療圏内の急激な人口減少により、都市部で放射線治療の体制を持つている大規模な病院から、対象となる患者の紹介要請も強く寄せられております。

市立総合病院は、がん治療を必要とする患者に拠点病院と連携して対応する「北海道がん診療連携指定病院」に指定されており、放射線治療に關しましては、現状のとおり旭川医科大学病院や旭川厚生病院などの「がん診療連携拠点病院」との連携を図りながら、化学療法、緩和ケア、相談支援などのがん医療サービスの提供に努めてまいりたいと考えております。

ご意見にありましたとおり、遠方の病院で放射線治療を受けるためには、大変なご不便をお掛けいたしておりますが、ご理解賜りますようお願いいたします。

4

河川整備による防災対策について

風連別川の本や川底の問題について、「過去の要望活動により23線までは河川環境整備が実施されたが、それ以降は整備されていないため大雨の際など災害の心配がある。管理主体が違つたためか、市に要望しても整備についての回答がない。早急に対応してほしい」との議会としても意見書を提出するなど働きかけをしてほしい」との意見が出されました。

河川整備による防災対策について市長の見解を求めます。

【回答】

北海道が管理する風連別川につきましては、毎年、河川内の雑木伐採についての要望をいただいておりますが、その都度、北海道に対し市からの継続の要望案件としてお願いしているところであり、平成26年度に下流部の国道側から上流部の23線防風林までの区間を伐採していただきましたが、続きの上流側の区間については要望どおりに予算化されてい

ないのが現状です。平成30年度においても北海道に対し強く要請してまいります。

また、市が管理する普通河川については、引き続き緊急性の高い河川を見極めながら、計画的に雑木伐採及び堆積物除去等の維持管理業務に努めてまいりますのでご理解願います。

5

現在使用されていない公共施設の管理について

市内の公共施設について、現在使用されていないごみ焼却施設や旧公設地方卸売市場など、景観的にも良くなく安全面においても心配があるため、早急に方向性を定めて対応すべきとの意見が出されました。

公共施設等総合管理計画における考え方と未使用の公共施設の今後の対応について市長の見解を求めます。

【回答】

市内の公共施設につきましても、築年数が経過し老朽度が著しい建物も数多く存在しておりますが、そうした施設の今後のあり方について、公共施設等検討ワーキンググループなどにより庁内各部横断的な議論を進めるとともに、主要な公共施設にあつては、将来人口の予測と照らし合わせながら、公共施設の統廃合、複合化、長寿命化などを十分に検討し、公共施設等総合管理計画を着実に推進していかなければなりません。

また、今後使用する見込みのない施設については、市民の安全安心や良好な景観の促進に向け、危険度の高い施設から順に取り壊しを進めていく必要がありますが、解体撤去費用についても予算を伴うことから、毎年度の予算査定において、財源確保と併せながら検討してまいります。

6

空き家対策について

全国的な問題でもある空き家対策について、名寄市においても安全面や防犯などの面でも大きな問題となつてきており、行政として早急な対応を求める声が複数ありました。

今後の名寄市における空き家対策について、取り壊しへの支援等も含めて市長の見解を求めます。

【回答】

本市では、空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成28年度に名寄市空家等対策協議会を設置し、8月には名寄市空家等対策計画を策定してきました。市ではこの計画に基づき、空家等の利活用の促進と、所有者自ら適正管理をして頂く啓発の取組を重点課題と位置付け取組を進めてまいりました。

利活用の促進では市内の宅地建物業者の協力を頂き、市ホームページに名寄市空家バンクを開設し、市内全戸にチラシを配布し利用の周知を図るとともに、空家の適正管理に向けて、冬期間や夏期間におけるその時期に応じた空家の管理に向けたワンポイントアドバイスや、空家が倒壊し他人に損害を与えた場合のリスク等についての啓発に取り組んでまいりました。また、苦情や市が把握した管理不全の空家に対しましては、その所有者に対し電話や文書により適正管理のお願いをしてきております。市が把握している管理不全の空き家は、平成26年度では81戸で、その後自ら除却した建物が14件、再利用が4件、新たに把握した件数が29件で、現在92件把握しております。

名寄市内の空家の実態把握につきましては、名寄市空家等対策計画で定めております特定空家等認定基準に基づき市内全域の空家実態調査を取り組んでおり、今後におきましてはこの調査を基に、個々の空家の状況に応じた利活用や適正管

理に向けた周知啓発に取り組んでまいります。また、取り壊し等への支援につきましては、現在市内の空家等の流通が盛んになってきていることや、所有者自ら除却を取り組まれている現状でもあり、状況を注視しながら名寄市空家等対策協議会等で、ご意見を伺いながら検討してまいりたいと考えております。

7

道路整備・除排雪対策について

今回の議会報告会においても、各会場にて道路整備と除排雪にかかわる意見・要望を多く伺いました。道路整備に関しては「路面の痛みが激しい箇所が多い」「凹凸がひどく改修を要望したがなかなか着手されない」「防塵処理の施工方法をもっと工夫すべき」等の意見が、除排雪に関しては「排雪回数を増やしてほしい」「除雪後の間口除雪を行政として行ってほしい」等の意見が出されたところです。

これまでも、道路整備や除排雪対策について議会として市長への申入れを何回も行ってきている項目であります。議会報告会においては市民からの意見・要望等が毎回出されており、市民への説明を含めどのような対応を行っているのか、これまでの対応等について具体的に示してもらおう必要があると考えております。

改めて、名寄市としての道路整備と除排雪についての考え方と今後の対策及び市民への説明等について市長の見解を求めます。

【回答】

本市の道路整備は、この間、社会資本整備総合交付金を活用しながら、道路の緊急性や安全性を優先的に検討しながら、計画的に道路整備を進めてまいりました。また、緊急を要する修繕箇所や突発的なものの修繕についても適宜、業者発注や道路センター職員により直営で業務にあたっております。

その際には、地先の方や町内会関係者、ご要望いただいた方などに事前に説明を行い、一緒に立会いしていただくなど、必要に応じて対応してまいりました。ご指摘の凹凸箇所や防塵処理の対応については、工法の検討の課題もあり、全ての課題に対応できていないことも事実であります。市民の満足度が高まるよう、引き続き、道路整備事業の推進に努めてまいります。

また、除排雪対策についてご指摘いただきました排雪回数増加や間口除雪の課題については、この間、機械の老朽化、重機オペレーターや運転手の人材不足の観点から、降雪・積雪状況にもよりますが、重要幹線道路及び幹線道路については、年に2回から4回程度、生活道路については年1回を基本に計画されており、これ以上の回数を増やすとなると、将来にわたって持続的な運用が図れないと危惧しているところです。また、間口除雪については、現在の新雪除雪（かき分け除雪）を通勤・通学・通院などに支障が出ないよう、早朝1時過ぎから6時ごろまでに道路幅員を確保することに視点を置いておりますことから、各戸の間口除雪を実施した場合、今以上の時間的なロスが生じ、6時ごろまでに除雪が間に合わなく、道路交通に支障が生じることとなります。間口除雪の実施については、本市の機械力、オペレーターなどの人員不足から考えますと、今以上の除排雪事業は難しいと考えております。

この間、広報誌同時配布チラシ「なよろの除雪」や名寄市ホームページなどで除排雪事業について情報発信しておりますし、いただいたご意見やご要望については、現地に赴き、地先の方などと協議の上、対応しております。また、積雪時のパトロールなどで未然に危険箇所や不具合箇所を発見し、改善に努めているところです。

引き続き、除排雪事業のあり方については研究し、市民の満足度や快適度の向上のため、施策の検討や推進を図るとともに、更なる情報発信に努めてまいります。

平成29年度10月 議会報告会 アンケート結果

議会報告会でご回答いただきましたアンケートの集約結果は次のとおりです。また、ご回答いただいた市民の皆様は96人で、回答率は89.7%となっています。()の数字は回答者数です。

問1 あなたの年齢は？

20代(0人) 30代(4人) 40代(2人) 50代(10人) 60代(32人)
70代以上(48人) 未回答(11人)

問2 あなたの性別は？

男(72人) 女(24人) 未回答(11人)

問3 これまでに議会報告会に何回出席したことがありますか？

1回(41人) 2回(14人) 3回(11人) 4回(5人) 5回以上(15人)
初めて(1人) 未回答(20人)

問4 議会報告会の内容についてはどうでしたか？

(全体的に) よかった(41人) ふつう(47人) よくなかった(1人) 未回答(18人)
(報告内容は) わかりやすかった(34人) ふつう(47人) わかりづらかった(4人)
未回答(22人)
(意見交換の内容は) よかった(44人) ふつう(35人) よくなかった(1人)
未回答(27人)

今後改善すべきことがあればお書きください。

- ・町内会を対象として議会報告会をするというのは、現実、町内会が行政の一翼を担っている点からも議会報告会を町内会単位で行うのは、ちょっと筋違いなのではないかと疑問がある。
- ・もっと分かりやすい内容にした方がいい。
- ・今回、報告事項の内容が難しい言葉が多いと感じ、正直、理解しがたいと思った。
- ・議会報告会の開会時間を18時で行ってほしい。
- ・農業経営者にとってこの時期はまだ取り入れ物があり、11月に入れば落ち着くので11月の昼の開催にしてはどうか。
- ・参加者が少数でも中身のある懇談会であり続けてほしい。
- ・議会報告会の事前周知をもっと徹底すべき。

問5 議会だよりはお読みになりますか？

毎回読んでいる(50人) たまに読んでいる(39人) 読まない(5人)
未回答(13人)

問6 議会ホームページはご覧になりますか？

よく見ている(8人) たまに見ている(33人) まったく見ない(48人)
未回答(18人)

問7 議会中継(同時中継、録画中継を含め)はご覧になったことがありますか？

よく見ている(6人) たまに見ている(30人) まったく見ない(50人)
未回答(21人)

問8 議会を傍聴したことがありますか？

傍聴したことがある(36人)(平均3.4回程度) 傍聴したことがない(56人)
未回答(15人)

問9 議会に対してご意見があれば、自由にお書きください。

- ・市民側も今日の議会報告会のような取り組みにもっと積極的にかかわるべきと反省した。
- ・色々制約がある中で、18人で頑張っているということで市民として応援する。党派を超えて市民と同じ目線で協力し合ってもらいたいと思う。
- ・今日の報告会は報告の中身が少なく理解がしやすかった。
- ・意見交換が多く発言がしやすかった。(2件)・大変良い内容だった。(2件)
- ・町内会を主体にしたアットホーム的な雰囲気話し合いが出来る議会報告会が望ましい。
- ・議員一人ひとりが後援会や一市民の声を聞くことと、併せて全体像を見渡す力量を養う努力をしてほしい。
- ・施設の利用に対して高齢者を優遇してほしい。
- ・今回のような町内会集会所等を利用した小報告会をぜひ実施してほしい。(議会が身近に感じられるし、課題について即答して頂けるのでとても分かりやすい。)
- ・図書館は市の規模に見合ったものにしてほしい。
- ・今後は議会の傍聴をしたいと思う。・議会活動に評価する。
- ・各市議会議員は全市民が送り出した事を自覚して頂き、議員活動に専念して頂きたい。
- ・議員は雲の上の人と思っていたが、大変な気の遣い方をして気の毒に思える。自分のやれる事を頑張ればそれでいいと思う。
- ・情報発信の方法を要検討してほしい。
- ・施設の使用料をもう少し安くしてほしい。(よろーなの冷暖房料が高すぎる。)
- ・意見交換で提言された案件について、議会等で提案した案件があるのか。
- ・執行者側とのやり取りでもう少し具体的な提案を聞きたい。(検討するとかではなく、もう少し具体的な回答を引き出すような力をつけてほしい。)
- ・地元で議員がいなくなり、議会に対して遠く感じるようになった気がする。